



会報

WEEKLY REPORT

2022-23 R.I.会長

ジェニファーE. ジョーンズ
第2500地区第6分区帯広北ロータリークラブ
会長/木戸辰浩
副会長/福田和彦
幹事/及川悟

[四つのテスト]1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

第3048回 例会報告

2022.9.30

●例会日/金曜日 (12:30~13:30)
●例会場/ホテル日航ノースランド帯広
●事務局/帯広市西3条南9丁目 帯広経済センタービル4F
TEL 0155-25-7347

- 点鐘 木戸辰浩 会長
- 国歌斉唱
- ロータリーソング (四つのテスト)
- ゲスト紹介 北海道新聞社帯広支社 報道部長 森奈津子様
- 会長挨拶 木戸辰浩 会長



皆様こんにちは、今月はロータリーの友・ガバナ月信・DEIについてお話をしました。共通するのが皆様にダイレクトに情報を伝えるという事が一番の目的です。是非、皆様にとっても見る『癖』をつけてください。

DEIについては、なかなか話だけでは理解するのが難しいとは思いますが、私のテーマにありますように『時代と友に理解と充実した行動』と挙げておりますが、時代に沿った見方をしてもらえればいいかと思えます。

私も20年ロータリー歴がありますが中な理解もできず、今このような役職柄、色々な情報やテキストを参考にしながら身に付けているのが現状でございます。

少しでも皆様方にも身に付けてもらいたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

さて、今月も今日で終わり、私が会長に就任してから3ヶ月が経ちました、コロナも増加傾向にありましたが、例会もなんとか再開できて順調に進んでいるかと思えます。

私自身も手術して退院して3ヶ月、会長職と同じ様に順調に回復に向かっている状態です。

まだ右手の方が少し自由が効かないものですから、現在リハビリ中ですが、ロータリーも頑張り、身体も頑張りたいと思っております。

今後もこのような形で年内、例会もうまく順調に言ってくれればと思います。

来月10月は地区大会・周年事業(帯広西・音更)と御座います、大変忙しい中ではあると思いますが、今年お配りしたグリーンのネクタイ、スカーフを着用して参加をお願いしたいと思います。

これで会長の挨拶とさせていただきます。

■会務報告 及川 悟 幹事

R1第2500地区大会(旭川)開催のご案内

日程 10月8日(土)~10月9日(日)

《大会1日目10月8日》

記念親睦ゴルフ大会 8:00~

大雪山カントリークラブ

会員研修セミナー

(3年未満・女性会員) 13:00~ アートホテル旭川

《大会2日目10月9日》

登録受付 9:00~ 旭川市民文化会館

※写真撮影は9:10頃に旭川市民文化会館正面出入口(テーマ看板)

本会議(午前の部) 10:00~12:00 旭川市民文化会館

本会議(午後の部) 13:00~16:20 旭川市民文化会館

大会記念大懇親会 17:30~19:00 アートホテル旭川他
※登録料:14,000円、記念親睦ゴルフ:5,000円、
会員研修セミナー:3,000円

10月14日(金)の例会は休会と致します。

■ニコニコボックスの発表 福田和彦 副会長

妻の誕生日に記念品を頂き有難うございました。

松原会員

今日も晴れです。

萩原会員

息子が空道全道大会U-7で優勝しました。

黒田会員

9月のゴルフ例会で優勝しました。

若林元会員

9月ゴルフ例会で優勝してしまいました。

福田会員

令和4年度帯広国際カントリークラブ クラブ選手権に2008年以來14年ぶりに優勝を果たすことができました。

高田会員

本日担当例です。宜しくお願い致します。

曾我会員

■プログラム 曾我 浩昌 会報・広報委員長

【タイの北海道スイーツと王室のトピックス】

北海道新聞社帯広支社

報道部長 森奈津子様



タイは、観光立国でもあり、皆様の中にも旅行されたり、お仕事で行き来されている方もいらっしゃると思います。ご存知の通り、東南アジアの中でも早くから経済発展をとげ、国民の所得も増し、経済的には安定した国の一つです。タイには日系企業が6千社進出しています。いたるところに日本人駐在員がいます。日本人がいる所、日本食レストランあります。現在、タイ国内のいたるショッピングモールには吉野家、大戸屋、やよいけん、リンガーハットなど日本で他店舗展開している外食チェーン店であふれています。当初は日本人駐在員とその家族向けの店でしたが、10年ほど前からはタイ人の間でも日本食ブームが到来。日本食はいまやブームを超えて一般的な外食の一つとして浸透しています。

この日本食ブームを追う形で、スイーツの分野でもタイ人の間で和菓子ブームが到来しています。その代表格は大福です。東南アジアで、あんこは日本のように一般的に食べるものではありませんでしたが、このわすが数年で、タイ人が利用するコンビニ、スーパーでも普通に大福が並ぶ時代となりました。

タイでの大福ブームの到来に一役かっているのが、十勝の幕別町に本社を置く十勝大福本舗さんです。お手元に十勝大福本舗さんの記事を配らせていただいています。この企業がバンコク近郊に製造工場を建設し、本格的な生産を始めたのは2019年。ところが本格生産開始直後にコロナの流行に見舞われ、商談がすすめられなくなり、取引先の開拓に大変苦労されたようです。それでも有力コンビニとの取引に成功



してからは大福の売り上げが急増。生産が追いつかないという状況になっているという嬉しいお話をお聞きし、私の帰国ぎりぎりには何とかこの記事を出すことができました。

以上のようにタイは経済的にも中間層が育っていることから、日系企業が東南アジア進出の足がかりとして拠点を築くにはとても適した国です。

一方で、タイという国は政治的には実は不安定な国です。もともと軍の力が強い国でしたが、比較的民主派とされるタクシン首相の登場以降、民主派勢力と保守派勢力とのせめぎ合いが一進一退で続いています。逆にいえば、民主化がなかなか根付いていないというのが現状です。その証拠にクーデターが頻発することでも有名です。1932年の立憲君主制への移行から、2022年までに起きたクーデターの数を見ると、未遂も含めて計19回に上ります。現在の政権も事実上軍事政権が権力を握っています。

近年、その不安定さに拍車をかけているのが現国王の存在です。

現在の国王はワチラロンコンという名前で、即位したのは2016年と最近で、現在の年齢は70歳です。英国のエリザベス女王などと比べ、タイの国王は日本ではあまりなじみはないでしょうが、この国王は王子時代から「とんでも王子」として数多くのスキャンダルやゴシップで悪名をはせていて、数々の奇行で国内外にも知られた存在です。

この国王の変った点は数多くありますが、まずはほとんどタイ国内にいません。つまり、自分の国に住んでいないのです。王子時代から1年のほとんどをドイツの別荘で過ごし、国王になってもタイへは、宗教儀式などで1年に数回帰るのみです。タイに戻っても日帰りでドイツに帰る時もあるほどで、よほどタイにいたくないのでしょうか。当然、タイにいないので、タイを訪れた外国要人を接待したり、海外を訪問してその国の皇室と交流するなど、国王らしい仕事もまったく行っていません。もちろんタイの王室は国王がタイにいないことを国民に認めていません。しかし、国王がドイツで短パン、タンクトップ姿となり、愛人と一緒にソフトクリームを食べ歩いている姿がネットに流れたり、ワチラロンコン国王がドイツの高級ホテルを借り切って愛人10数人と過ごしているとドイツの新聞に報じられるなどしていることから、国内にいないということと国外でのハメの外しっぷりは国民の誰もが知る公然の秘密となってしまっています。

この国王はこれまで4回結婚しています。結婚の回数が多いから悪いとはいえませんが、これまで離婚した3人の女性は皇室関係者だった最初の結婚相手を除き、国外に逃亡せざるをえなくなったり、出家させられたり、いずれも不幸な末路をたどっています。また、パーティーで王妃を半裸姿にして接待させた動画が出回るなど、まあ、こうした話題、ゴシップには事欠かず、国王即位後は、側室制度を100年ぶりに復活させ、かねてお付き合いしていた女性に正式な側室の称号を与えました。少し前までは、国王参加の儀式では王妃と側室が必ず同席するという、現代社会の価値観でみると、なんとも気まずい光景が繰り返されていました。

一方、単に遊び歩いているだけでなく、この国王は軍事政

権に圧力をかけ、毎年王室予算を増やし続けています。また、世界の王室で最多とされる1兆4千億バーツ(約4兆7千億円)以上の王室資産を、国家基金としての位置づけから国王の個人名義に切り替えるなど、国王の権限を強化する姿勢を鮮明にしています。ちなみに先日亡くなったエリザベス女王の資産は約600億円(3億7千万ポンド)。タイのワチラロンコン国王の資産はエリザベス女王の800倍にも上ります。

そもそもタイでは歴史的に国王が絶対的な権威を持ち、「神聖不可侵」の存在でした。国民が王室を侮辱すると罪に問われる不敬罪がいまだ存在するのも、それが理由です。現在の問題国王の父親である前国王、プミポン国王は70年と長期間在位し、その間、数々の貧困救済活動を行い国民からの信頼を得るのに成功してきました。

一方で、プミポン国王は、王室と、軍、財閥が政治的、経済的に強力に結びつき、強固に支えあう特権階級社会を作りあげた人物です。きわめて単純化して言えば、軍は国王の意向を極力かなえ、その代わりに、国王は軍を政治的に擁護します。また、財閥は国王に毎年巨額な寄付を行い、寄付をした財閥は優遇される仕組みです。典型的な例がタイの空港の免税店です。タイに旅行されたことがある方はお気づきかもしれませんが、タイの空港でお土産を購入するとたいてい「king Power」と書かれた透明なバックに商品が入られます。「キングパワー」というのはタイの大財閥の一つですが、その名の通り王室に非常に近く、ほぼ国内の空港の免税店を一手に運営しています。新しい空港の入札ではなぜかいつも落札しており、同社の独占状態が長く続いています。

そもそも、こうした支配層である特権階級の既得権を国民に容認されてきた根底には国王への信頼があつてこそでした。しかし、奇行を繰り返す今のワチラロンコン国王時代に入り、当然国民の王室への信頼や尊敬の念は急激に失われてしまいました。それでも、古き良き時代の前国王時代を経験し、幼いころから学校や家庭で王室愛をはぐくんできた現在の中高年層は、現国王を好ましく思っていないくても、王室愛みたいなものはいまだ持ち続けています。一方、大学で欧米の民主主義を学んだり、ネットで欧米社会文化に触れる機会の多い若い世代は王室制度に反感。これまでタイ社会でタブーだった国王への批判が公然と語られるようになり、王政改革を訴える大規模デモが連日起こり、学生リーダーたちが次々と不敬罪などで投獄されました。コロナの流行で、外出や集会が厳しく規制されたことや、警察に徹底的な取り締まりで、デモは一時下火になりましたが、コロナが沈静化した今後、再びデモが活性化する可能性はあります。

日本も安倍元首相の国葬で世論が二分し、国民の断絶が浮き彫りになりましたが、タイでも王室を依然支持する中高年層と、王政を改革し、民主化を進めるべきだと考える若者層との断絶は深く、火だねとなる可能性も指摘されています。

本日はあまり耳にすることがないタイの王室についてお話ししました。コロナが沈静化した今後、タイへ行く機会があれば、町中のあちこちにワチラロンコン国王の巨大な肖像画や写真を見つけたら、森が話していた人物だな、と思っただければ幸いです。本日はつたない話を聞いていただきどうもありがとうございました。

■ 次週のプログラム予定

「ゲスト卓話又は会員卓話」

■ 閉会宣言

■ 点鐘 木戸 辰浩 会長

例会案内

〈月曜日〉 広尾RC:日高信金広尾支店 〈水曜日〉 帯広RC:ホテル日航ノースランド 〈木曜日〉 足寄RC:足寄銀河ホール21
帯広南RC:北海道ホテル 上士幌RC:川村福祉会館 清水RC:清水町中央公民館
〈火曜日〉 芽室RC:めむるーどセミナー 音更RC:ハビオ木野 帯広西RC:北海道ホテル
帯広東RC:ホテル日航ノースランド

■ 出席報告/窪田 篤弘 出席委員長

会員数	計算に用いる 会員数	ホームクラブ 出席数	メイクアップ	欠席	出席率
62	56	37			59.6%